

注意事項 1 解答用紙に受験番号と氏名の記入を忘れないこと。

2 問題用紙、下書用紙は解答用紙とともに机において退出すること。持ち帰ってはいけない。

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

テクノロジーを「技術」と言うが、私は「術を外して「技(わざ)」と言う。医学のテクニクではなく、医学の「技」というものがもっと重要視されるべきだと私は考えている。ところで、サイエンスとしての医学が発達していない時代から医療というものはあった。その医療を施されると確かに良くなる人がいた。その「技」とは何であるかを考えなければいけない。

(中略)

西洋医学は「メデイカル・サイエンス」(医科学)を長く実践してきたわけだが、本当の「メデイシン」には「技」が含まれている。「メデイシン・イズ・アート・ベースド・オン・サイエンス」(Medicine is an art based on science)、医学はサイエンスに支えられたアートであり、サイエンスに支えられて咲くのは「技」という花である。

(中略)

私はこれまで医学概論に関する論文をいくつも書いてきた。最初の頃はサイエンスとしての医学を追究していたが、次第に、医学という単独の学問が存在するのではなく、広い意味の医学——臨床医学、基礎医学、予防医学、リハビリテーション医学、そして看取りの医学へと拡大していく医学——の像を抱くようになり、「医学は看護とマージ(融合)する必要がある、単独では使命を果たすことはできない」と考えるに至った。だから、私が医学概論について語る時は、看護学概論もその中に含ませている。予防医学、臨床医学、リハビリテーション医学、看取りの医学が良い方向に実現されるためには、看護というものが深く入り込んだ医学概論を考える必要があると思っている。

教育においても、これまでは医学生に対する教育の領域、看護学生に対する教育の領域、薬学生に対する教育の領域がそれぞれ定められ、区別されてきた。しかし、これから医学、看護学、薬学を学ぶ学生は、「共に学ぶ」方向、「チーム・ベースド・ラーニング」(Team-Based Learning)の方向に行くべきだと考えている。

「チーム・ベースド・ラーニング」は、1970年代後半、アメリカ・オクラホマ大学のラリー・K・ミカエルソン教授によつて編み出された教育法である。医学生や看護学生、あるいはリハビリテーションを学ぶ者は、分断されて勉強するのではなく、この教育法に基づいて、その初歩の段階にある時から一緒に学ぶべきである。現場に出た時は初めからチームで働くのだから、医学部の講義、看護学部の講義と分けるのではなく、「チーム」を念頭に置きながら、最初から「チーム・ベースド・ラーニング」の考え方で学んだほうがいい。そこで学んだことが現場で実現される時には、素晴らしいチーム力が発揮されるであろう。

新しい医学教育、看護教育を実践しているカナダのマクマスター大学では、医学生と看護学生と一緒に講義を聴き、実習をする。私は日本の医学教育、看護教育もこのような方向に進むべきだと強く感じている。

医の「技」、看護の「技」を大切にしている医学は、オスラーの時代からすでに実践されていた。「技」は、単なる技術ではなく、より根源的な「アート」を表現している。昔は医学、生理学、解剖学、生化学と看護のサイエンスは区別されていたが、「技」という言葉の中にインテグレート(統合)されていくべきだと私は考え、いろいろな講演でオスラーの精神を伝えてきた。

どのようなものでも専門性は必要だが、専門性がありながら、互いに絡み合つて実践されるものが本当の医学であり看護である。医師やナースには、もっともつと医学と看護をインテグレートした医学概念が必要ではないかと考えている。

リベラルアーツの習得も非常に重要だ。生物学、統計学、化学、心理学、社会学、教育学、倫理学などを習得しないと一人前の医師や看護師にはなれない。そういう意味で日本の教育制度はもっと改革しなければならない。

(日野原重明著「だから医学は面白い」日本医事新報社)

問一 この文章に適切なタイトルを三十五文字以内でつけなさい。

問二 筆者は「技(アート)」とはどのようなものと考えており、どのようにすれば習得できると考えているのか。二五〇字以内で述べよ。

問三 あなたはこの文章に述べられている「技(アート)」を習得するために、医学部に入学したらどのようなことを行いたいと考えるか。これまでの経験も含めて七五〇字以内で述べよ。